

特別講演では「東日本大震災における災害拠点病院としての経験」と題し、震災の最前線で診療に当たられた宮城県坂総合病院の今田隆一先生にご講演いただき、ランチョンセミナーでは久留米大学の前田正治先生に「原発事故に立ち向かう～南相馬市・雲雀ヶ丘病院の苦闘～」という演題で震災後の特に精神的な問題についてお話しいただきました。シンポジウムでは「災害に備えて、私たちがすべきこと」をテーマに、行政、医師、看護師、救急救命、在宅、口腔ケアと広い分野の方々にそれぞれの立場から災害時の活動について発表、討論していただきました。一般演題はポスター形式で35題の発表が行われました。

皆様のご協力で盛大な学術集会となりましたことに感謝申し上げ、本会の成果が今後の災害対策準備の一助となりますよう願っております。

第10回石川支部学術集会

世話人：社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院
理事長 神野正博

2012年10月20日(土)、石川県七尾市の七尾美術館アートホールにおいて、「チーム医療の明日」をメインテーマに、第10回石川支部学術集会を開催いたしました。当日は、石川県全域から医療従事者122名の参加がありました。

特別講演では、「福井県済生会病院における職員満足度向上の取り組み」と題して、社会福祉法人恩賜財団済生会支部福井県済生会病院事務副部長兼経営企画課課長の齊藤哲哉先生をお迎えし、ご講演をいただきました。職員が病院理念に共感し、フラットな関係でお互いを尊敬しチームとなって相乗効果を発揮した様々な取り組み事例をご紹介いただき、多くの感動と興奮をいただきました。

また、一般演題では県内病院の看護師や放射線技師などから10演題の応募がありました。それぞれの病院での多職種協働による取り組みについて報告がされ、活発な意見交換が行われました。

最後に、皆様のご協力により、今回の第10回石川支部学術集会が盛会のうちに終了できましたことを深く感謝申し上げます。

第12回北海道支部学術集会

学術集会会長：市立函館病院副院長 丹羽 潤

2012年10月26日(金)、27日(土)の2日間にわたり函館市の函館国際ホテルで、「医療の質の向上～医療安全と医療連携～」をメインテーマに、第12回北海道支部学術集会を開催しました。一般演題は28題で、135名の参加があり活発な討論がなされました。特別講演は名古屋

屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部長尾能雅先生から「連携不足による医療事故の実際」と題してリスク管理には個人やシステムのみではなく、ノンテクニカル

な力、さらにこれを重要視する個人の力が必要であるなどの報告がありました。ランチョンセミナーは医療の良心を守る市民の会代表 永井裕之さんから「医療に報告文化・正直文化そして安全文化を」と題して、現在の医療に対する市民側からの忌憚のない意見を聞かせて頂きました。またパネルディスカッションは「道南地方における地域連携システム～ITを利用した医療情報共有システム“MedIka”」と題して、急性期・回復期そして在宅・介護の立場からそれぞれ発表があり、こちらも盛況のうちに終わりました。



会場風景

第12回栃木支部学術集会

学術集会会長：足利赤十字病院看護部長 川崎 つま子



会場風景

2012年10月28日(日)足利赤十字病院を会場に、「2025年問題を見据えた多職種連携のあり方」をメインテーマに第12回日本医療マネジメント学会栃木支部学術集会を開催いた

しました。当日は約140名の参加がありました。

最初に高崎健康福祉大学医療情報学科准教授である木村憲洋先生による基調講演「社会保障改革と医療」が行なわれ、社会保障と税の一体改革により、子育てや医療・介護、年金、雇用、貧困などへの支援や対策が、2025年に向けて整備されていくということでした。また、多死社会を迎え、在宅医療の充実が重要となると述べられました。

シンポジウムでは「多職種連携の在り方を考える」と題して在宅医療の立場から、院内活動をしている歯科医師の立場から、管理栄養士の立場から、特定看護師の立場からということで4名のシンポジストの方にお話をいただき、フロアからの活発な意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことができました。当日は雨天にもかかわらず、栃木県内他、群馬県からも多数の方の参加をいただき、盛会のうちに終了できましたことは、関係者の皆様方のご支援によるものと心より感謝申し上げます、開催の報告とさせていただきます。